

## 論文審査の結果の要旨

令和元年7月22日

申請者： 王 婷婷

論文題目： 中国の大学における日本語専攻学習者の動機づけの研究

ー内容重視の言語教育としての持続可能性日本語教育に基づく翻訳授業を通してー

本提出論文は、中国大学日本語教育において喫緊の課題として現場では認識されているにも拘らず教育的介入による課題解決の方向性が追求されてこなかった「学習動機の減退」を取り上げ、授業改善による克服の可能性を探った三つの実証研究をまとめたものである。

具体的には、一般的に広く採用されている「ツールとしての日本語教育」の限界を克服するものとして提出されている「内容重視の言語教育」としての持続可能性日本語教育に基づいてデザインされた翻訳授業の受講が受講生の学習動機にどのような変化を及ぼすかを、受講生の新たな授業への参加の仕方の変化、及び新たな授業への捉え方の変化から探った。その結果、ツールとしての日本語教育の下で動機減退のスパイラルにはまり込んだ受講生が、新たな授業の受講を通して、そのスパイラルから脱し、新たな学習動機が形成されていくことを、コース開始前、コース中間、コース終了後のインタビュー調査の結果に対してKJ法を援用した分析で明らかにした。

本審査委員会は、本論文に対して、以下の点から評価をした。

1. 先行研究をよくレビューし、それに基づいて研究課題を設定していること。
2. 研究課題に対してとられた研究方法が適切であること。特に、学習者動機という外から窺い知ることが難しいことに対して、活動への参加の仕方の観察、及び、学習者による授業への捉え返しに対するKJ法を用いた分析で、学習動機の実態に迫ることができたこと。
3. ツールとしての言語教育に代わる教育として提示されている持続可能性日本語教育の新たな展開に道筋をつけたこと。
4. 自らの実践を対象とした研究であり、実践家としての教師の研究のモデルを示したこと。

本審査委員会は提出論文に対して一様に高い評価を与えた。令和元年7月8日（月）、東京紀尾井町キャンパスで実施した口述審査会においては、本研究の要点を的確に提示し、審査委員からの質問については自信を持って丁寧に自分の考えを述べた。

提出論文も口述審査も満足すべきものであり、博士の学位に十分値するものと判断して合格とした。

審査員（主査）： 人文科学研究科 野々口 ちとせ  
審査員（副査）： 人文科学研究科 岡崎 眸  
審査員（副査）： 人文科学研究科 板井 美佐  
審査員（副査）： 大連外国語大学 陳 岩